

Echo

NO.137 平成 20 年 10 月 20 日

発行：(社)福島県臨床衛生検査技師会 事務局 〒963-8558 郡山市西ノ内 2-5-20
財団法人太田総合病院附属太田西ノ内病院
TEL(FAX) 024-925-8931

発行責任者：大花 昇 編集委員：渡辺 伸

平成 20 年度活動目標（概要）について

社団法人福島県臨床衛生検査技師会
会長 大花 昇

1. 学術部

学術事業は、精度管理事業と同様に当会活動の柱事業である。現行の検査研究部門・分野体制は、社団法人日本臨床衛生検査技師会並びに東北臨床検査技師会体制と一部同調しないが、当面の間は現行体制で活動する。

2. 精度管理事業部

学術部から独立し、精度管理委員会及び基準値共有化委員会を所管する。精度管理事業は、県民の医療・健康増進のための重要な事業であり、基準値共有化委員会を中心に推進する全国臨床検査データ標準化事業と併せて県民の医療福祉の向上に寄与する公益事業である。

3. 人財育成事業

昨年度から開始した事業であるが、本年度も継続事業とする。若手・中堅技師の学術部門における人財育成及び当会におけるリーダーの人財育成事業を推進する。

4. 小規模検査室のための研修事業

昨年度から開始した事業であるが、本年度も継続事業とする。

5. 理事の業務分掌

今年度から新たな業務分掌として、県学会総務・会計は藤野高志理事（県北支部）、県学会総務は石田久敏理事（会津支部）、高倉澄江理事（相双支部）、公益事業は大貫文子理事（い

わき支部）、小柴静子理事（会津支部）、叙勲、厚生労働大臣表彰、県知事表彰などの各種表彰推薦は増子和之理事（県南支部）が担当する。また、ホームページ運営委員長は渡辺伸常務理事（県北支部）が広報部長と兼務する。基準値共有化委員長は鈴木弘子理事（県南支部）が再任する。

6. 県学会の会計処理一本化

来年の第 41 回福島医学検査学会（斎藤市弘学会長、平成 21 年 5 月 24 日、会津若松市）から県学会総務・会計担当理事及び県学会総務担当理事が中心となり実施する。併せて、県学会運用ガイドライン（共通マニュアル）の策定、今後の県学会のあり方についても検討する。

7. ホームページ

当会のホームページは、アクセス数が年々増加傾向にあり、東北地区では最大である（56,760 件、平成 20 年 9 月 2 日現在）。今後は、当会の顔・玄関口として極めて重要な役割を担っていることから、益々充実した内容と情報提供を目指す方針とする。

8. 公益法人

公益法人制度改革に伴う新たな公益法人を目指すため、事務所は現行の事務局所在地である郡山市内に平成 21 年度開設を検討し、併せて事務員採用についても検討する。公益事業は、公益事業担当理事を中心に開催を検討する。

会員並びに賛助会員の皆様には、今後ともよろしくお願いいたします。

事務局より

財団法人 太田総合病院附属太田西ノ内病院
山寺 幸雄

本年度より事務局を担当することになりました太田西ノ内病院の山寺です。6月に福島医大附属病院の平木前事務局長から引継ぎまして、早くも3ヶ月が経過しました。開始当初は解らないことばかりで右往左往している毎日でしたが、現在はようやく事務局としての仕事の概要が見えて来たところです。私の今までの技師会活動は、主に検査研究部門の学術分野を中心としておりましたので、学術路線ならいざ知らず総務の仕事をお願いすることについては、大いに戸惑いましたが、大花会長の技師会を盛り上げようとする心意気に押され、この度、事務局をお引受けすることに致しました。

現在、当技師会は、公益法人取得について、(社)日本臨床衛生検査技師会の動きを踏まえながら準備を進めているところですが、まず、その手始めの仕事として、来年度には事務所の開設と事務員採用計画の実施、さらには今後の公益事業活動に関する企画構想や実現に向けた準備等々のクリアすべき多くの重要事項を抱えております。そのような技師会の変革期に当たる大切な時期に事務局長としての大役が果たせるかどうか、不安一杯の私ではありますが、会長・副会長を精一杯にサポートしながら、理事の方々と共に当技師会の活動をより一層盛り上げて行きたいと思っています。また、事務局として各支部ならびに会員の皆様との連携をより円滑に行くよう頑張る所存でもおりますので、どうか会員の皆様におかれましては、まだまだ不手際が多い新事務局ですが、何とぞ温かい目で見守っていただければ幸いです。

新事務局の連絡先

〒963 8558 郡山市西ノ内2丁目5番20号
(財)太田総合病院附属太田西ノ内病院
生理検査科内
TEL / FAX ; 024 925 8931
E-mail ; fukuringi@ohta-hp.or.jp

福島県臨床検査技師会理事を担当して

いわき市立総合磐城共立病院
中央検査室 蛭田 栄子

県の理事を引き受けてから今年で3年になります。役員会の会場は福島医大の検査部カンファランス室でほとんどが日曜日に開催されます。会場まではいわき支部長の車に便乗させていただきました。この時間は技師会活動の内容ばかりではなく幅広くお話をさせていただき福島までの距離も短く感じました。(プライベートなことも含めて)理事が果たす仕事内容は三役(会長、副会長、事務局長)常任理事(学術部長、組織会計部長、広報部長)とは違い、三役と常任理事からの報告に対する意見と質問さらに承認、支部からの質問や問題点等を報告し役員会で審議し決定されたことを、支部に伝達する役目だと思いました。

また日臨技事業報告、検査室運営について、診療報酬について、検査技術向上について(精度管理事業)学術組織体系について、など議論され見直されたことや、新規に定められたこと等たくさんあり、いち早くキャッチできることは理事としてのメリットだと思いました。

大花会長から是非企画したいとのことで、今年はずじめて卒後研修会が郡山市保健センターで11月17日、18日の両日開催され、私も“若いふり”をして参加させていただきました。テーマは緊急検査についてでした。その中でもアクションプラン策定は、テーマを与え、それをグループごとにまとめて発表するまでです。短時間でまとめパワーポイントでスライド作成、若い技師の堂々とした発表、たのもしく行く末は明るいなと思いました。このような充実した研修会が役員会で提案され会員の方に還元できますよう協力していきたいと思っています。

最後に福島県臨床衛生検査技師会役員会が益々活気あふれる会であることをお祈りいたします。

(原稿は昨年度中に頂いておりましたが掲載を今号とさせていただきます。広報部)

平成 20 年度定期総会 第 40 回福島医学検査学会を終えて

学会長 藤野 高志

第 40 回福島医学検査学会並びに平成 20 年度 (社)福島県臨床衛生検査技師会総会が去る 5 月 17 日(土)・18 日(日)福島市において開催されました。定期総会には 158 名の会員、学会には会員、賛助会員、学生、非会員の方を含め 324 名の参加がありました。会員をはじめ多くの方々のご支援ご協力を賜り盛会に終えられたことに、担当支部を代表し感謝申し上げます。

学会は福島ビューホテルにおいて公開講演で幕を開けました。『メタボリックシンドロームにならないために』という趣旨のもと、アミノ酸の講演を明治乳業の藤田稔先生に、食環境からの講演を会津大学短期大学部の金子礼子先生にいただきました。どちらの先生の講演も内容の濃いもので、多少時間が足りなかった感じもありましたが、これを機に食と運動への関心が高まり、メタボといわれる方が一人でも少なくなればと思います。

定期総会では、役員の変更と今後の技師会の動き等が示され承認されました。大きな点は公益法人化を目指すことです。事務所の開設や公益事業の更なる開催、学会の会計の一本化等新体制で再出発しました。引き続き情報交換会が予定よりも遅れて開催されました。多忙な中、福島県立医科大学 感染制御・臨床検査医学講座教授 金光 敬二先生にお願いいただきご挨拶を頂戴しました。ちなみに、先生には当技師開会の顧問をお願いしております。また、会場では、余興の霊山太鼓に合わせて踊っている方、四方山話に花が咲いている方、もくもく食べている・飲んでいる方等々それぞれ有意義な時間を過ごされたことと思います。

翌日は福島県立医科大学看護学部にて一般演題、教育講演を開催しました。一般演題全 32 題の発表では、日頃の業務や研究の成果を大いに議論していただきました。全ての発表が P C での発表になりましたが、運営方法にはまだまだ見直しの余地があるようですので、今後の課題となりました。



学会は教育講演で幕を下ろしました。福島県立医科大学生化学講座教授 橋本康弘先生に、今話題の“糖鎖の研究”からアルツハイマー病の病態、さらに先生の最近の研究までを分かりやすくご教授いただきました。糖鎖は疾患、特にがんや炎症など多くのことに関与していて、この分野の先生方の仕事の恩恵を受けて、日頃検査していること。それが患者さんの治療に役立っていることなど糖鎖に関しての第一線のことを色々学べたのではないかと思います。

最後に、今回の学会の開催に当たり、御理解とご尽力をいただきました諸先輩方や関係各位さらに、実際に学会を運営していただいた多くの県北支部会員各位にはこの場をお借りして、改めて感謝申し上げます。

次回は会津支部の担当で開催されます。今回以上に数多くの演題を携えて、会津で再会できることを祈念いたしております。



編集後記

秋の季節が次第に色濃くなってきましたが、皆さまには、お元気でお過ごしのことと存じます。平成20年度広報部長をおおせつかりました渡辺です。

文章を書くことが苦手で、ましてや編集の仕事を担当するなど思いもせませんでした。どんな内容にしたらよいか考えあがき、時間だけが猛スピードで過ぎて行ってしまいました。大変遅くなってしまいましたが広報誌をお届けします。これからもどうぞ長 1目で見ただけなら幸いです。

また、ホームページ運営委員も兼務することになりました。会員の皆さまに利便性のある内容をお届けできるよう新メンバーを含め健闘して参ります。どうぞ宜しくお願い致します。